

議会広報広聴委員会

令和 8 年 8 月 10 日（月）
午後 1 時 30 分から
第 4 委 員 会 室

【出席者】大谷委員長、岡山副委員長、
西田一平委員、今田委員、遠藤委員、花田委員、戸津川委員、沖田委員、
笹田委員、岡本委員
【事務局】濱見書記

議題

1 地域井戸端会の反省・課題について……………資料1

- (1) 「地域井戸端会」の反省点・課題など
- (2) その他

2 その他

「地域井戸端会」の反省点・課題など

1 開催方式・イベント形態の見直し

反省点・課題

- ・ 28 箇所すべてを回る現在の方式は、議員の負担も大きい。
- ・ マンネリ化している。
- ・ ここ数年でこの手法に限界がきており、参加する側は「参加者がいないと悪いから」などでの参加となっており、やる側も「おそろおそろ」行っている感があり、一応は「やっただけ」となっている気がする。
- ・ 参加人数の多さが開催目的達成の成果指標となっている感がある。大切なことは、より市民の想いや具体的な課題、提案を引き出すことである。
- ・ 議員が来るのだから行かなくてはと思わせてしまっていること事態が、問題と感じた。
- ・ 開催場所も現在のまちづくりセンターが中心であるが、再考すべき。

改善方法・代替方法

- まちづくりセンターで日時やテーマを設定してもらい、一定の人数が集まった段階で議員が呼ばれて出向く「オンデマンド型」への移行を検討する。
- 地域単位の報告会より、所管委員会単位での団体、企業等との意見交換の機会を増やす。たとえば下関市のように、常任委員会ごとに対象を絞り、テーマに関わりの深い団体や市民グループを招くスタイルに変更する。
- 一般市民だけでなく、学校などを対象にした意見交換会や、外国人との意見交換を設ける。
- 会議方式ではない、自由度が高くフラットに話ができる「カフェ形式」や、学生等若者を対象とした「井戸端カフェ」を別途検討する。
- 報告会だけでなく、デジタル媒体による議会報告の充実を検討し、情報発信のバランスを再構築する。

2 参加者の偏りと周知・集客の課題

反省点・課題

- ・ 参加者が毎回同じようなメンバーに固定化される傾向があり、参加者の偏りがある。どうしても参加の敷居が高い感じがある。
- ・ 若い方の参加がないのは残念である。子育て世代包括支援センターでは子育て世代の参加を狙ったが、実際は別世代で1名のみだった。
- ・ 全体に旧浜田市内では参加者がほとんどおらず、旧町村の地域ではまちづくりセンターの職員やまちづくり委員会の方が住民に声掛けしている。議会としての宣伝や告知だけでは人が集まらなくなっており、まちづくりセンター職員などの善意によるものが大きいのが現状である。

- ・ 毎回のことではあるが、周知が行き渡らないとの意見がある。参加者が極めて少なく、住民の幅広い意見聴取という点では課題が残った。

改善方法・代替方法

- 従来通りの周知（ホームページ、チラシ、町内会回覧）に加え、今後は SNS を駆使した新しい周知方法を検討する。
- 「はまチャレ」と同様に、地域井戸端会に参加した場合のポイント付与など、参加意欲の向上プランを検討する。
- 特定のターゲットを対象とする場合は、初期段階から開催趣旨や参加対象について徹底した調整を行う。また、若い女性と男性の参加者が増える仕組みを構築する。

3 当日の運営・進行に関する課題

反省点・課題

- ・ 自由意見を求める際、こちらから問いかけを工夫しないとなかなか意見が出てこない場面があった。
- ・ 会場によって、担当外の議員などの参加や発言に関するルールが統一されておらず、担当議員の役割が曖昧になるおそれがあった。実際に担当議員以外の参加者から意見や見解が述べられ、議論の進行や整理が難しくなるケースがあった。
- ・ 対話の場で、特定の参加者が長時間にわたり発言を独占したり、他人の意見を批判したりする場面への制御が難しかった。
- ・ 個人の意見が委員会の統一見解として独り歩きしてしまわないよう、発言の際の配慮が必要だと感じた。
- ・ 常任委員会の活動報告について説明方法や内容にばらつきがあり、耳で聞くだけでは内容が伝わりづらかった。

改善方法・代替方法

- 担当外の議員の傍聴および発言に関するルール（傍聴は可とするが発言は控えるなど）を事前に統一し周知する。
- 「他人の意見を否定しない」「1人で時間を独占しない」といった対話のルールを開始前に参加者全員で共有する。
- 司会進行に不安のある議員（特に新人議員）向けに「進行マニュアルや司会原稿」を事前に共有する。
- 常任委員会の報告などでは、耳だけでなく目で見ても分かりやすい 1 枚ものの簡易説明資料や箇条書きの資料などを用意する。
- 可能であれば町内会単位など、より細かな単位にアプローチしてみるのも一つの手である。

4 市民意見への対応とフィードバックのあり方

反省点・課題

- ・ 住民の方々の意見や要望があまり反映されていない現状も、参加者がいなくなった大きな要因になっていると思う。
- ・ 地域の声に対して、その場で十分に回答できないものも多くあった。市の担当部署に確認が必要な内容や、複数の部署にまたがる課題も多くあった。
- ・ 市の各種支援制度そのものはあっても、「知らない」「使い方が分からない」「自分が対象になるのか分からない」という声があり、制度の説明が市民に十分届いていない。

改善方法・代替方法

- いただいた意見を整理し、確認が必要なものは担当部署へつなぎ、後日きちんと報告できる流れをつくる。意見に対して「その後どうなったのか」が分かるように、返し方や報告の仕組みを工夫していく。
- 制度をつくるだけでなく、分かりやすく伝えること、必要な人に届くことを重視する。

5 事前準備・日程調整などの運用上の課題

反省点・課題

- ・ 開催日程が地域内の会議と重なっていたため、事前に地域行事や各種会議の状況を十分確認しておく必要があった。また、開催日が重なりすぎていて、他の会場の様子を見に行くことが難しかった。
- ・ 事前の伝達や進行指示、必要な準備物（テーマ提示用の用紙など）の指示が不足していた。持参した配布用「はまだ議会だより」の部数が不足した会場もあった。
- ・ 夜間開催の場合、山間部の暗い夜道の移動を懸念し、参加を躊躇する市民が見られた。

改善方法・代替方法

- 参加見込みが極めて少ない会場については、事前に開催を見合わせるなどの柔軟な対応を可能とする。

地域井戸端会

次第

1 開会

- ・ 議員挨拶、各種説明

2 議会の現状報告（3常任委員会ごとに）

- (1) 令和8年度の注目事業（令和8年3月定例会議の報告）・・・2～3ページ
- (2) 委員会での調査や取組など・・・4ページ

3 テーマに基づく意見交換（40分）

- ◆総務委員会・・・防災と避難行動計画について

～災害が起きたらどうしますか？自分と家族を守るための行動～

- ◆文教厚生委員会・・・子どもや高齢者の暮らしの困りごと

- ◆産業建設委員会・・・100年先に残したい浜田の食

4 出た意見の概要発表（10分）

5 自由に意見交換（40分）

6 出た意見の概要発表（10分）

7 閉会

- ・ まとめ

2-(1)令和8年度の注目事業(令和8年3月定例会議の報告)



今回はこれが
ポイント！

令和8年度浜田市一般会計予算 427億4000万円を慎重審議し可決！

3月定例会議では、まず市長から令和8年度の施政方針が示されました。議案の中で特に注目されたのは、浜田市カスタマーハラスメント防止に関する条例検討委員会設置に係る条例改正、浜田市美又温泉美肌観光拠点施設の指定管理者の指定、副市長及び教育長の選任などが挙げられます。

予算決算委員会では、主に691事業からなる一般会計をはじめ、国民健康保険などの特別会計や上下水道

などの公営企業会計の令和8年度当初予算を審議しました。中でも「社会福祉協議会助成事業」と「地域包括支援センター運営事業」については予算決算委員会において執行部の質疑の後に、議員間の自由討議を行い、さまざまな議論を重ねました。その結果、予算決算委員会から附帯決議案を提出することとなりました。3月定例会議最終日の本会議においても附帯決議を全会一致で可決しました。

議会注目事業の概要と着眼点



関係人口の拡大

関係人口 創出拡大事業

2,096万円

関係人口と継続的に関わる仕組みをつくり、担い手が不足している地域の活性化につなげる。令和8年度はデジタル技術を活用し、本市に貢献したいと思う人を増やす仕組みを構築するため、民間事業者への業務委託を行う。

着眼点！
関係人口の増加により、地域の活力アップへつなげる。ふるさと納税・企業版ふるさと納税増額さらには定住者増加にも期待する。



公共施設利用

公共施設予約 システム管理事業

2,929万円

市民がスマートフォンなどを通じて市内公共施設の予約手続を行う管理システムを導入・管理することにより当該公共施設を利用する際の利便性向上を図る。

着眼点！
一年を通して24時間いつでも予約状況を確認し、利用予約が可能となる。スマートロックなどの導入により鍵の受け渡しが必要となることやキャッシュレス決済との併用により市民の来庁回数が大幅に減る。また申請時のペーパーレスや市民の手続負担の大幅減に期待する。



地域福祉

社会福祉協議会 助成事業

1億2,416万円

地域福祉の推進を図ることを目的として社会福祉協議会へ助成する。

着眼点！
人件費補助として、前年度から約2,300万円の増額がはたして適切な予算であるのか。
議会として次のとおり附帯決議を可決した。
(1)人件費補助の積算根拠及び事業効果の明確化
(2)事業別コスト構造及び人件費構成の透明化
(3)事業の整理・統合など効率的な事業運営に向けた見直し



安全安心

カスタマー ハラスメント 防止対策事業

1,142万円

カスタマーハラスメント防止に関する条例検討委員会を設置し、条例制定を行う。市民や事業者のカスタマーハラスメント被害を受けない安全な環境を構築し、被害防止を図る。

着眼点！
市議会としても、大きな社会問題と認識している。重要な行政課題と位置づけ、条例策定に向け後押しする。

3月定例会議



教育・子育て支援

学校給食費 激変緩和対策事業

1,378万円

食材料費の高騰を踏まえ、令和8年度実施予定の学校給食費の引上げ改定に際し、食材の購入費を支援することで、保護者の負担軽減を図る。小学校は月額5,200円の補助。中学校は引上げ額の1/2相当額×給食提供食数。



中学校は国からの補助がなく、市の補助として改定に伴う引上げ額の1/2相当額を食材購入に充てる。今後、中学校の補助をどう拡充していくかが期待される。



健康医療対策

地域包括支援 センター運営事業

9,770万円

高齢者の生活に関する総合相談、サービス調整機能などを担う地域包括支援センター運営事業を委託。



令和8年度は前年度と比較して大幅な増額となり、次のとおり附帯決議を可決した。

事業評価、成果指標を明確にする必要があるため、以下の事項に取り組むこと。

- (1)相談支援体制、地域ケア会議の運営状況及び訪問活動等の実績整理と事業評価
- (2)地域包括センターの機能強化に向けた運営方針及び成果指標の明確化



観光施設整備

ふるさと体験村 改修事業

1,307万円

ふるさと体験村の食堂および宿泊施設の桑田、箸立て、ログハウスへのエアコン設置工事、エアコン設置に関わる電気設備の改修工事を実施する。



近年の猛暑に対応し、向こう3年間の集客目標の達成に向け整備を実施する。令和8年度早々に入札手続を開始し、まずは食堂から着工する予定。集客の増加に期待する。



スポーツ振興

国民スポーツ大会 競技会場整備事業

1億4,855万円

令和12年度に開催予定の第84回国民スポーツ大会の競技会場となる市有施設について競技施設基準を満たすとともに安全性・利便性を高めるための改修などを行う。



浜田市陸上競技場・三隅中央公園陸上競技場、サン・ビレッジ浜田スポーツ広場、浜田市野球場、三隅中央公園市民野球場の5ヶ所が改修の対象となり、トイレをユニバーサルデザイン化し、各施設の競技エリア整備で国民スポーツ大会以降も使えるよう整備する。



駅周辺整備

浜田駅周辺 グランドデザイン 策定事業

617万円

総務省の地域力創造アドバイザー制度を活用し、浜田駅周辺エリアの目指す将来像や整備イメージなどを盛り込んだグランドデザインを策定する。



グランドデザインの検討過程において、市民や事業者など対話や議論を重ねることで、駅周辺エリアの目指すべき方向性や将来的な整備イメージが明確になるとともに、策定後は共通の目標に向かって官民一体となったまちづくりが可能となる。



水産業振興

浜田漁港養殖事業 可能性調査・研究 事業

3,209万円

令和8年度中に実施されるプロキシマー(株)の事業用地最終候補地選定の判断材料となる、水量、水温、水質などを海水井戸の試掘を実施し、調査・研究する。



現在、プロキシマー(株)が協定を締結している自治体は当市のみで、海や漁港が近く、すでに整地済みである瀬戸ヶ島埋め立て地を最終候補地として選定されることに期待する。

2-(2)委員会での調査や取組など

◆総務委員会

①防災・減災について

市内の防災意識の不足や自主防災組織の活動不十分、避難所の立地・運営・備蓄等に課題があることから、これらの現状を把握し、地域防災力を高める効果的な方策を検討する。

◆文教厚生委員会

①こどもの権利の推進について

こどもの権利に関する施策の現状及び課題を把握するとともに、こどもが安心して意見を表明し、社会に参画できる環境づくりや、その意見を施策へ適切に反映する仕組みのあり方について調査研究を行う。あわせて、「こどもの権利条例」制定に向けた市の取組状況についても調査し、こどもの権利の推進及び関連施策の充実を図る。

◆産業建設文教厚生委員会

①浜田漁港・商港の活性化について～海洋産業・観光・物流の一体的振興と持続可能な港づくり～

浜田漁港と商港の再整備と連携強化により、海洋産業の生産性向上、地域経済の再生及び山陰西部の戦略拠点としての国土強靱化を図る。

②中山間地域の再生について～耕作放棄地・空き家の再生と就農支援～

少子高齢化・人口減少が進行する中山間地域において、耕作放棄地対策、空き家の再生及び就農支援を一体的に行い、地域の魅力を高める総合的な再生策を調査研究する。

地域井戸端会開催でのお願い

- 写真撮影や動画配信をしない

ほかの参加者に配慮し原則禁止します（全員が了承された場合は可とします）

- ほかの参加者の意見を否定・批判しない

それぞれの視点や多様な考え方を大切にするため、お互いの意見を尊重しましょう。

- 1人で時間を独占しない(多くの方に発言の機会を)

特定の参加者だけが長時間お話しされることがないように、限られた時間の中で譲り合ってご発言ください。

- この場限りの内容(プライバシーに関わることなど)は外に広めない

全員が安心して本音で対話できるよう、ご協力をお願いします。

- 担当外の議員は、原則として傍聴のみとし発言は控える

当日の議論の進行や整理をスムーズにし、担当議員が市民の皆様との対話に集中できるよう、事前に統一されたルールに基づき運営いたします。

【メモ】